

授業概要

小学校教育における生活科教育の意義や創設の趣旨を理解し、生活科の理論や実践事例を通して、生活科の実践的な指導力が身につくように指導する。そのために具体的な指導例や授業実践を紹介しながら、教科目標や学習内容・単元づくりについて講義し、実際の学習指導案作成・模擬授業を行う。

学習指導案の検討や模擬授業の実践では、本学の教育理念である「自立と共生」を授業内でも実現できるよう、他者への共感やコミュニケーション力を引き出し、専門的な技能を高めていけるように指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の目的と進め方、生活科の創設について知る）
第 2 回	生活科の教科目標、学年目標、体験活動
第 3 回	接続期の教育（スタートカリキュラム）の考え方
第 4 回	生活科の内容構成（3つの階層性と9つの内容について）
第 5 回	内容の取扱いについての配慮事項
第 6 回	生活科の単元構成と指導計画
第 7 回	授業構成と授業の実際（授業実践例を通して）
第 8 回	生活科の学びの質
第 9 回	学習指導案の作成①（単元を決め学習指導案を作成する）
第 10 回	学習指導案の作成②（学習指導案を発表し合い、意見交換を通して学習指導案の検討をする）
第 11 回	模擬授業①（模擬授業を実施し、授業の流れや改善案を考える）
第 12 回	模擬授業②（模擬授業を通して学習評価のあり方を考える）
第 13 回	生活科の授業改善とカリキュラムマネジメント
第 14 回	生活科から「総合的な学習」へ
第 15 回	講義のまとめ（生活科における児童成長と学びを導く教師の役割）
第 16 回	学期末試験（筆記試験）

到達目標

- ・小学校における生活科教育の意義、目標、指導内容についての理解を深める。
- ・接続期教育を理解したり生活科の単元構成を考えたりしながら、具体的な授業イメージをもつことができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、生活科の授業のあり方について協議したり考えたりすることができる。

履修上の注意

- ・講義を聞くだけでなく、実際の授業づくりの演習を取り入れた授業であるので、協働的に学ぶ姿勢を大切にすること。
- ・授業を欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。

予習・復習

- ・シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前に必ずテキストをよく読み、講義内容が理解できるように予習しておくこと。
- ・復習として授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておくこと。
- ・予習、復習共に必ず毎回 30 分以上の時間をかけること。（質問等あれば次回の授業で対応します）

評価方法

- ・受講態度や授業の振り返りコメント 20%
- ・学期末試験 60%
- ・課題レポート 20%

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 生活編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社